



①原木伐採（芽がでるところまで）

- ・最適種コナラ、クヌギ、ミズナラなど。5～30cm位の太さの木が最適。
- ・時期紅葉期から、新芽がでる頃まで。



②玉切り（30～100 cm）

細かいひび割れが、木口の樹皮の近くにもできた頃。玉切り後（購入原木も）は、直射日光に当てないように、遮光ネットなどで覆い乾燥を防ぐ。

枝干し  
枝、葉をつけたまま、均等に水分を抜く。直射日光が当たらないよう、枝・葉などで覆う。



③植菌（原木直径の3～4倍以上の駒数）

穴を開ける

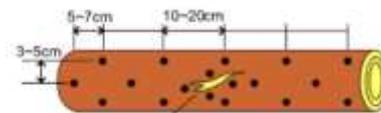
菌を植える穴はドリルなどで千鳥状か、ラセン状にあける。

菌を植える

菌は木の樹皮面と平行に打つのがポイントです。

植菌配列

縦に10～20cm間隔に5～9ヶ所、横に3～5cm間隔に植菌する。



④ほだ木管理（仮伏せ、保温・保湿）

横積み、立て寄せ、井桁積み、地伏せなど。水はけが良く暖かい所に置く。周囲をコモ、遮光ネット・ビニールなどで囲い、時々散水し、5月頃まで保湿する。上部はヨシズ、笹・柴などで覆い、直射日光を防ぐ。低温時はビニールなどで覆う。ビニールなどで覆ったときは、通気に注意し蒸れないようにする。



林、ハウス、裸地、人口ほだ場など。水はけが良く、暖かく明るく風通しが良いところ。直射日光は避け、湿度が低いところ。直射日光が当たる場合は遮光ネットなどで日陰をつくと良いでしょう。2～3ヶ月に1回天地返しをして、ほだ木のどの部分も同じ状態にして下さい。

⑤ほだ木管理（本伏せ）

（直射日光をあてないようにする）  
6月上旬頃、大部分のほだ木の木口に菌糸紋が表れた頃。乾燥し過ぎないように適度に散水する。

⑤ほだ木管理（本伏せ）

⑥発生・収穫

シイタケ